

所属・氏名（ 薬学部 薬学科 氏名：吉川 明良 ）

著書,学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所,発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) COVID-19 治療中に発現した 吃逆に影響を与える因子の検 討 ステロイドローテーショ ンの有用性を含めて	共著	2022 年 9 月	医療薬学 48 巻 9 号 389-395(2022)	概要:COVID-19 治療中に発現した吃逆に影響 を与える因子を抽出し、その中で因子のひとつ であった高力価ステロイドのステロイドローテー ションが吃逆治療に有効であることが示唆された。 (7 頁) (佐古 有紀,吉川 明良,山内 健,伊藤 徳 明,実綿 慶,北原 良洋,沖本 真史,渡辺 美和, 高蓋 寿朗) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) レボドパ/カルビドパ経腸用液 導入前後の併用パーキンソン 病治療薬の違いによる投与量 の変化	共著	2022 年 1 月	日本病院薬剤師会 雑誌 58 巻 1 号 47-52(2022)	概要:レボドパ/カルビドパ経腸用液の投与量調 節に影響を与える併用薬に関して調査した。導 入前よりパーキンソン病治療薬を多剤併用して いる患者やドパミンアゴニスト使用患者では、導 入時のレボドパ投与量より、調節後の投与量が 増加する可能性が示唆された。(6 頁) (栗 彩華,吉川 明良,宮森 伸一,開 浩一) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (学術論文) ステロイドパルス実施中にお けるせん妄発症のリスク因子 に関する予備的検討	共著	2020 年 8 月	医療薬学 46 巻 8 号 460-465(2020)	概要:ステロイドパルス療法実施中の患者におけ るせん妄発症の実態を調査するとともに、せん妄 発症のリスクとなる因子を調査した。高齢男性で 本文に示した三つの因子をあわせもつ場合にせん 妄を発症する判別的中率は 93.7%であった。 (6 頁) (高橋 葵,吉川 明良,波多江 崇,開 浩一) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (学術論文) エンザルタミド服用タイミング 変更における疲労・倦怠感改 善の検討	共著	2019 年 10 月	日本病院薬剤師会 雑誌 55 巻 10 号 1211-1215(2019)	概要:エンザルタミドの服用タイミングを変更す ることで副作用である疲労・倦怠感の改善効果 を前向きに調査した。疲労・倦怠感に対する対策 として、朝食後から夕食後への用法変更が有用 である可能性が示唆された。(5 頁) (関永 彩夏,吉川 明良,村上 礼隆,開 浩一) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (学術論文) 高齢入院患者における不眠 時頓服薬とせん妄発症に関 する後方視的検討 エスゾピ クロンとトラゾドンに関するデ ータ《筆頭論文》 《過去 5 年一部抜粋》	共著	2019 年 8 月	日本病院薬剤師会 雑誌 55 巻 8 号 947-951(2019)	概要:高齢入院患者に不眠時頓服薬としてトラゾ ドンまたはエスゾピクロンを使用した際のせん妄 発症率を調査した。両薬剤のせん妄発症率は高 齢入院患者の 10~30%に発症するとされる他の 報告と比べて低く、またエスゾピクロンは抽出さ れたせん妄リスク因子を有する患者にも安全に 不眠時頓服薬として使用できる選択肢となる可 能性が示唆された。 (5 頁) (吉川 明良,和田 健,合薬 哲也,高橋 葵,森 田 春香,後藤 麻美,開 浩一) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能

令和 6 年 4 月 1 日現在